

麻しん及び風しん(MR混合)・麻しん(単抗原)・風しん(単抗原)予防接種について

1 病気の説明

(1) 麻しん(はしか)

麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生がみられます。

また、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例発生し、麻しん(はしか)にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。

(2) 風しん

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。

合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

2 ワクチンの副反応

(1) 麻しん及び風しん(MR混合)ワクチン(生ワクチン)

麻しんウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

副反応の主なものは発熱や発疹です。第1期では、観察期間中(0日～28日)に初発した発熱は約16.6%みられ、そのうち最高体温が38.5℃以上であったものは、約10.6%にみられます。第2期では、観察期間中(0日～28日)に初発した発熱は約6.0%にみられ、そのうち最高体温が38.5℃以上であったものは、約3.4%にみられます。発疹は第1期で約4.3%、第2期で約1.0%にみられます。

他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹(はれ)、硬結(しこり)などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応のデータから、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。

(2) 麻しん(単抗原)ワクチン(生ワクチン)

麻しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

接種後に、発熱を伴う熱性けいれん(約300人に1人)を来すことがあります。その他、ごくまれに脳炎・脳症(100万～150万人に1人以下)の報告があります。

(3) 風しん(単抗原)ワクチン(生ワクチン)

風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。

※ワクチン接種後はウイルスが体内で増えますが予防接種を受けた人から周りの人に感染することはありません。

接種後の注意

- 1 接種後1週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- 2 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- 3 重い健康被害が生じた場合、厚生労働大臣が予防接種によるものと認定したときは、予防接種健康被害救済制度の給付対象となります。
詳しくは「予防接種と子どもの健康」で確認していただくか、接種医療機関または市町村へご相談ください。

お問い合わせは各市町村の保健センターへ

津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村